

日本子ども学会/Japanese Society of Child Science」は、設立5年目に入り、発展の基盤が固まりつつあり、ヨチヨチ歩きができるようになったと言えます。しかし、これからが本番、会員諸姉諸兄の御支援が必須です。

まずお願いしたいことは、会員数を増加させることです。「子ども学」は学際的、環学的であると共に総合的、統合的である文理融合科学、ずばり言えば「子ども」の「人間科学」(ヒューマンサイエンス)なのです。従って、子ども問題“children's issues”に関心を持つ人ならばどなたでも入会する事が可能ですので、ぜひそれぞれの専門家が、それぞれの分野で仲間を増やしていただきたい。幸いわが国では、「子ども学」を冠する学科や研究室が増えつつあり、大学教育の中で目玉にもなりつつあります。学会員ひとりがひとりの会員を増やせば倍になる訳で、それ程困難なことではないのではないのでしょうか。

しかし、会員を増やすためには、学術会議を魅力的にしなければなりません。来る第4回の学術会議は、ぜひ成功させていただきたい。

21世紀は、共生、共存、共創の時代と言われ、ICTの進歩により情報の共有も手軽にできる時代です。子どものことを皆で一緒に考えるために、力を出し合って日本子ども学会を大きく前進させましょう。

日本子ども学会代表 小林 登

2006年度の活動報告

06/4/8 関西「子ども学」大学関係者の集い

(於:甲南女子大学)

06/7/24 第15回運営委員会

2005年度決算、2006年度予算について

第3回子ども学会議準備状況報告

「チャイルド・サイエンス懸賞エッセイ」審査状況報告

(於:ベネッセコーポレーション内会議室にて)

06/9/2-9/3 第3回子ども学会議

テーマ「子ども学の未来を考えよう」

第16回運営委員会の実施(9/2)、総会の実施(9/3)

(於:甲南女子大学)

06/10/6 第17回運営委員会

第3回子ども学会議実施報告

出版PJについて

(於:ベネッセコーポレーション内会議室にて)

06/12/1 学会誌『チャイルド・サイエンス vol.3』発刊

06/12/18 出版PJ準備会議

(於:ベネッセコーポレーション内会議室にて)

* 第3回子ども学会議での総会(9/3)における「定例報告資料」と一部重複します。

* 2006年度の決算報告は、第4回子ども学会議での総会にて行います。

2007年度の活動予定

子ども学会議(学術集会)

第4回子ども学会議は9月15日、16日に慶應義塾大学(三田)にて開催します。大会テーマは、「子ども学と生命科学」。特に「進化」と「脳科学」を中心テーマに、最先端の現代生命科学が子どもをどのようにとらえ、子どもを取り巻く問題にどのように立ち向かうかを多角的に考えることのできるようなプログラム構成を鋭意検討中です。

特別講演には長谷川真理子先生(総合研究大学院大学教授)、小泉英明先生(日立製作所)をお迎えします。またデヴィッド・スプレイグ先生(農業環境技術研究所)および中村徳子先生(昭和女子大学)による「進化と子ども」セッション、教育講演として忽那敬三先生(明治大学博物館)に縄文時代の子どもについて、鈴木秀樹先生(慶應義塾幼稚舎)にサウンド・エクスプローラのお話をいただくことも決まっています。ご要望やご提案がありましたら、ぜひお聞かせください。

9月に三田キャンパスでお会いできるのを楽しみにしております。

(第4回大会推進委員長 安藤寿康)

学会誌『チャイルド・サイエンス』

第4号の発刊(9月予定)。第3号よりインタビュー記事や学会員からの寄稿を中心にした構成に変更しましたが、いかがでしたか? 第4号では投稿原稿も募集し、より充実した内容となるよう編集します。

ニュースレターの発行

2006年度同様に、学会誌送付時と会費納入のお願いに同封する形でニュースレターを発行します。バックナンバーは、学会ホームページに掲載し、より多くの方にご覧いただけるようにします。

メールを活用した情報発信

郵送を中心とした情報発信では、タイムリーに会員の皆様に有益な情報をお届けすることが難しい状況にあります。現在、メールを活用し、会員の皆様から寄せられた情報や事務局からの連絡をお届けする方法を検討しています。

一般向け書籍等の出版

2006年度から検討しています、「子ども学」の考え方を広く一般に知っていただくための刊行物の出版について、今年度も継続して取り組みます。

運営組織の安定化

会則の見直し、予算配分、役員を選出等について運営委員会にて検討を重ねておりますが、公開する水準には至っていません。2007年度の総会の際、これらについてご報告し、ご意見をいただけるよう、今後も検討を重ねていく予定です。

ご意見などございましたら学会事務局までメール、ファックスなどでお知らせいただければ幸いです。

会員をご紹介くださいー新しいパンフレットができました

これまでの入会案内に加え、学会誌購入申込みもできる新しいパンフレットを作成しました。本ニュースレターに1部同封しましたので、「日本子ども学会」に関心のある方にお渡しいただければ幸いです。学会費は安定した学会運営をするうえでの貴重な財源です。また、多くの方に「日本子ども学会」の活動を知っていただく上でもより多くの方に入会いただきたいと考えています。

このパンフレットは在庫がございますので、研究会、講演会、学会などで配布いただける場所がございましたら、学会事務局までお知らせください。必要部数を送付します。みなさまのご協力をお待ちしております。

(CRN、日本子ども学会運営委員 所真里子)

「子ども学」に関する「出版プロジェクト」 進捗報告

昨年度「子ども学」に関する出版プロジェクトを立ち上げることになり、第3回子ども学会議の会場でのアンケートにより会員の皆様の意見をうかがいました。書籍全体に望むのは、「子どもの視点」「最新の研究成果の紹介」「現代の子ども問題を考える上での指針」「信頼性のあるデータ」であり、具体的なテーマとしては、「メディアと発達」「脳科学と教育」「発達障害」「育児支援」などが上位に挙げられました。

これらの結果を受けて運営委員のもとで話し合いを進め、

- 1) 現代の人間科学がどのような知見をもたらしているのか。
- 2) 子どもの成長・発達観がどのような変化や広がりを見せているのか。
- 3) その新しい成長・発達観から現代の子ども問題をどう捉えていくべきなのか。
- 4) 未来の子ども研究に向けて予想される方向性は。

これらの4つの問題意識を満足させるキーワード集を出版するための準備を進めております。

(日本子ども学会事務局長 木下真)

九州地区の会員のみなさまへ

会員の田崎さんからのご連絡です。

…今年10月7日に佐賀県にて小児保健関係者の集まりがあり、小林登先生の講演が予定されています。せっかくの機会ですので、近隣ご在住の会員の方を中心に、先生の講演に関連させた企画を考えたり、何か集いのようなものを実施できないかと考えています。ご関心のある方はぜひご連絡ください。

<連絡先> 〒849-0906 佐賀市金立町金立 2215-27 佐賀整肢学園こども発達医療センター 田崎 考

Tel & Fax 0952-98-2295 E-Mail ssgtasah@po.saganet.ne.jp

第5回子ども学会議は2008年9月に奈良女子大学にて

第5回子ども学会議のテーマは「"問題としての子ども" から "存在としての子ども" へ～いじめの理解を深めるために～」です。子どもを問題として捉えて処方箋を考えるだけではなく、存在として受け止めて子ども理解を深め、私たち自身の視座を広げていきたいと考えています。

具体的な切り口としては、現在大きな社会問題となっている「いじめ」を取り上げます。「いじめ」は決して一過性の現象ではなく、今後も繰り返される永続的な問題だと思います。事前の情報やアイデアの提供、研究会の実施など、日本子ども学会の会員の方々の積極的なご協力を期待しております。

(第5回大会推進委員長 奈良女子大学文学部 浜田寿美男)

学会誌に投稿しませんか？

学会誌『チャイルド・サイエンス』への投稿原稿を募集しています。投稿に関する質問などは随時受け付けますので、お気軽に編集部までお問い合わせください。多くの会員の皆様からの投稿をお待ちしております。

(学会誌編集委員、日本子ども学会事務局長 木下真)

投 稿 規 程

●条件

「チャイルド・サイエンスの確立」「子どもの成育環境の健全化」「チャイルド・ケアリング・デザインの構築」に寄与するもの。

●内容

総合的研究、探索的研究、総説、報告、主張、資料、書評など。学際的な学会という性格上、特定分野の高度な専門知識を有するものでなくとも問題意識を共有できるものが望ましい。

●投稿資格

著者または共著者が本学会の会員であること。(依頼原稿やインタビューは除く)

●採否

編集委員会(運営委員)で検討した上で決定します。

■締切り: 2007年4月末日(あらかじめご連絡いただければ相談に応じます)

■原稿量: 4000字程度または8000時程度の和文(図表含む)

■送り先: 〒186-0004 国立市中2-17-4-105 日本子ども学会編集部

TEL/FAX. 042-573-9512 kinoedit@ybb.ne.jp

* 投稿は原則として電子メールでお願いします。

「日本子ども学会」 登録変更届

(FAX 03-3368-2822) 記入日: 月 日

所在地やご担当者の変更がございましたら、お手数ですが、事務局までご一報ください。

お名前 _____

会員番号 _____

変更箇所 変更内容を具体的にご記入ください